

新年のご挨拶

公益社団法人 全国火薬類保安協会
会長 宮道 建臣



新しい年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。
皆様におかれましては、平素より公益社団法人 全国火薬類保安協会の事業活動に対し、多大なるご理解、ご協力、ご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

はじめに、令和 6 年能登半島地震により被災された皆様に、謹んでお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復旧がなされることを祈念申し上げます。

昨年の火薬類による事故は、82 件発生しました。製造中 2 件（産業火薬 1 件、がん具煙火 1 件）、消費中 76 件（産業火薬 2 件、煙火 57 件、がん具煙火 17 件）、がんろう中 1 件（産業火薬）、その他 3 件（煙火 2 件、がん具煙火 1 件）発生し、被災者数は 19 人（重傷 6 人（煙火 5 人、がん具煙火 1 人）、軽傷 13 人（産業火薬 1 人、煙火 8 人、がん具煙火 4 人）となっております。死亡事故の発生はありませんでしたが、82 件は昭和 58 年の 82 件以来の高い水準となっております。

背景として新型コロナウイルス感染症が感染症法の 2 類から 5 類に移行し、感染防止対策としての行動制限が緩和され、花火大会やイベントが再開されたことが挙げられます。また、昨年の夏は各地で猛暑に見舞われ、花火大会会場での散水が不十分となり、下草の火災が広がるという事故が散見されました。

猛暑という観点からは、東京の年平均気温（1 月～11 月）は平年より 1.8 度高い 18.4 度で、1876 年以降では最も高くなり、また、東京の猛暑日（日最高気温 35 度以上の日）は 22 日で、観測史上初めて 20 日を超えました。地震、台風や集中豪雨などと共に、高温下での消費、管理など、様々な環境下での火薬類の保安に万全を期していくことが必要です。

会員等の皆様におかれましては日頃より法令の遵守、自主保安活動に努められていることは重々承知致しておりますが、改めて危害予防規程や作業マニュアルを確認し、事故・災害の防止にご尽力頂きたいと思う次第です。

明るい話題としましては、昨年は WBC で侍ジャパンが劇的な優勝を果たし、大谷翔平選手は MLB で MVP を獲得、藤井聡太棋士は最年少名人獲得し、史上初の八冠全冠制覇の偉業を達成するなど、各方面での活躍がありました。こうした分野での熱戦には更なる熱い応援で、活躍を期待したいと思います。

経済産業省におかれましては、火薬類取締法の技術基準が産業実態の変化や技術の進歩など、時代の変化に対応した適時の見直しが行え、かつ、事業者の創意工夫が活かされるように、技術基準の性能規定化（スマート化）に取り組んでおられます。昨年貯蔵の技術基準についてパブリックコメントが実施され、仕上げの段階となっております。

全国火薬類保安協会といたしましても、性能規定化に対応する適合性評価の体制整備に取り組むとともに、火薬類取締法の目的である「火薬類による災害を防止し、公共の安全を確保する」ことを達成するため、IT 化などの社会的な要請にも応えながら、手帳制度・保安講習、保安責任者試験を着実に実施し、自主保安活動を推進してまいります。

新しい年が皆様にとりまして、事故の無い良い年となりますことを心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。